



トイレ診断士がお困り解決!

トイレの様々な「困った!」を解決するトイレ診断士の実践事例をご紹介します。

実践事例
ファイル
FILE No. 2

靴のにおい、爽やかに一掃! アロマ消臭剤エフグラスでスッキリ解消

問題点(症状)

沖縄・国際通りに昨年オープンしたYou&Me CRAFT BEERさん。同じビルにある系列店であるファーストフード店A&Wはすでにトイレ診断士がメンテナンスを担当しており、店長さんとは日頃から顔なじみの関係。その店長さんから、「ビールバーの事務所出入口にある下駄箱付近で靴のにおいが強く、市販の芳香剤では改善しない」というご相談が寄せられました。



診断内容

現場を確認すると、
・下駄箱周辺ににおいが滞留しやすい構造
・一般的な芳香剤ではカバーしきれない強いにおいが原因と判明。
まずはトイレでも使用されている森林浴消臭剤メンブレン(プレーンタイプ)を靴箱付近の天井に試験的に設置し、効果を確認することにしました。



改善策(治療)

プレーンタイプでも一定の効果はあったものの、「もう少し香りがほしい」という店長さんやスタッフさんの声を受け、植物精油アロマ消臭剤エフグラスシリーズのメントール/リラックス/ビタミン の3種類を比較。爽やかで清涼感のあるメントールが選ばれました。1か月間の試験運用を実施。試験期間中に「靴のにおいが気にならなくなった」「香りがさわやか」と店長さんはじめ多くのスタッフが効果を実感されました。



下駄箱周辺のおい問題が解消されました。

今回のお困り解消アイテム

植物精油アロマ消臭剤 エフグラスシリーズ

植物精油のアロマ効果でほんのりと香りを楽しみながらしっかり消臭。トイレはもちろん、更衣室や下駄箱、エレベーターや喫煙室など、臭いが気になる空間を消臭+香りで彩ります。



トイレ歳時記 3月

3月は、新生活の準備が少しずつ始まる季節ですね。家具や日用品をそろえる中で、つい後回しになりがちな防災用品も、このタイミングで見直しておきたいところです。非常用トイレや水の備蓄、トイレトイレットペーパーのストックなど、いざという時に欠かせないものは、普段の生活では存在を忘れがち。新しい暮らしを迎える前に、トイレまわりの備えも整えておく心安心です。

編集後記

お宮参りや七五三、安産祈願、初詣など、小さな子どもと一緒に神社を訪れる機会は意外と多いものです。今回の取材では、子ども用トイレや授乳室、着替えスペースなど、子ども連れにうれしい配慮が随所に整えられていることに気づかされました。訪れる人が安心して過ごせる環境づくりは、まさに「おもてなしの心」。こうした取り組みが広がっていくと、子ども連れの参拝ももっと心地よいものになると感じました。(セルベッチオ中嶋)

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル ☎0120-57-1110



トイレを楽しくする新聞

かわや版

2026 春号
Vol. 119

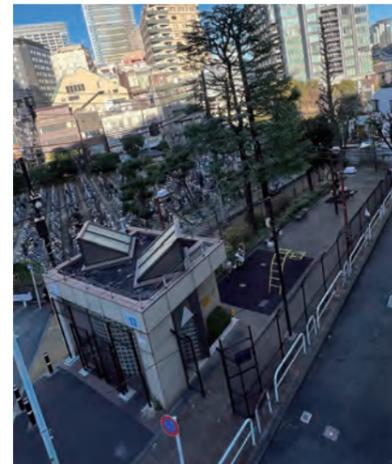
特集 人の集まる“みなと”としてのトイレ 港区「OTECO」の挑戦



公衆トイレと聞くと、多くの人が「汚い」「怖い」「使いたくない」というイメージを抱きます。長年、公共施設の中でも「負の遺産」として扱われてきた場所です。東京都港区では、その固定観念を根本から覆す公衆トイレ「OTECO」が登場しました。今回はOTECOの第一号となる六本木三丁目公衆トイレを取材しました。

不衛生で安全面に不安のある過去の公衆トイレ

港区の過去の調査では、公衆トイレの利用者の約95%が男性で、女性はわずか5%ほど。利用者の偏りが大きく、「安全面の不安」「不衛生」といった声が多く寄せられていました。そこで港区は、区民、在勤者、国内外から訪れる人々、子どもから高齢者まで——すべての利用者にとって心地よく、安心して立ち寄れる公衆トイレを目指し、「やすらぎもてなしの公衆トイレづくり」という理念を掲げた整備方針を策定しました。それが「人の集まる“みなと”としてのトイレ」OTECO(おてこ)です。



▲かつてのロクサンひろばと公衆トイレ

かつては“金網で封鎖”されていた場所

六本木三丁目公衆トイレは、繁華街の裏路地にある児童遊園「ロクサンひろば」に隣接し、夜になるとたむろやトラブルが絶えませんでした。最終的には夜間に金網で囲って閉鎖するしかないほど、地域の不安要素になっていたといいます。しかしOTECOとなった現在は、状況が一変しています。明るい外観と見通しの良い設計、そして、AIカメラが人の滞留や異常行動を検知し、近くの警備会社がすぐに駆けつける仕組みが整備され治安は劇的に改善。周辺住民からは「安心して使えるようになった」という声が多く聞かれるようになりました。治安が改善したことで人が集まるようになり、今ではこの場所で地域のイベントが開かれるほどになりました。

▼我善坊横川省三記念公園公衆トイレ



今後も増える OTECO

2025年11月には麻布台ヒルズの我善坊横川省三記念公園に2つ目のOTECOが完成しました。港区は今後、区内にある公衆トイレや公園トイレのうち、面積などの条件が合うトイレは順次OTECO仕様にしていく方針です。

OTECOがつくる “安心のデザイン”

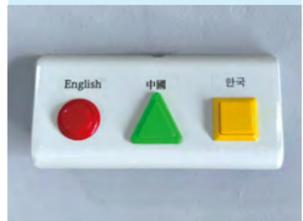
OTECOは、「個室化」「清潔」「非接触」「多機能」「防災」「IoT」など、多様な特徴を備えています。利用者の幅広さを想定した機能も充実しており、まるで大型商業施設のトイレのような安心感があります。その指針を詳しく見てみましょう。 [2ページへ続く▶](#)



▲六本木3丁目公衆トイレ前で行われたイベントの様子

OTECOを支える8つの整備指針

OTECOは「人の集まる“みなと”としてのトイレ」という理念のもと、8つの整備指針を掲げて整備が進められています。これらは単なる設備仕様ではなく、街の安心・快適・持続性を支える“公共空間のデザイン思想”そのものです。

<p>①個室化 プライバシーと安全を確保するため小便器を含め、すべて個室のレイアウトになっています。</p> 	<p>②非接触化 水栓やボタンの非接触化で感染症対策を徹底しています。</p> 	<p>③サスティナブル 節水型水栓器具はもちろん、外装に木材を使用したり、屋根には太陽光パネルを活用しています。</p> 	<p>④利用シーンの拡大 おむつ替えベッドやオストメイト設備、生理用品無償提供(OiTr)も導入しています。</p> 
<p>⑤安心で明るいトイレ 照明の工夫で影ができにくい設計になっており、防犯カメラなどの導入で犯罪を防止します。</p> 	<p>⑥わかりやすい情報表示 統一されたピクトグラムや多言語対応など、すべての人にわかりやすく情報を表示します。</p> 	<p>⑦防災機能(非常時の安心) デジタルサイネージは災害時に情報発信し、トイレ内には防災備蓄倉庫もあります。</p> 	<p>⑧IoT活用 IoT対応のトイレ設備を導入し、利用実態に沿った清掃計画など、維持管理に役立ちます。</p> 

IoTが支える「不具合が放置されないトイレ」

OTECOの大きな特徴のひとつが、IoT技術を活用した管理システムです。設備ひとつひとつに設置されたセンサーと無線モジュールが、故障、トイレの使用状況、消耗品の残量などをリアルタイムで検知し、管理者や清掃スタッフの端末に通知します。これにより、「壊れているのに放置される」「水石けんが切れているのに誰も

気づかない」「長時間利用で出てこない」といった状況が減少。清掃タイミングもデータに基づいて最適化されました。このシステムでOTECOは気持ちよく利用できるトイレになっています。

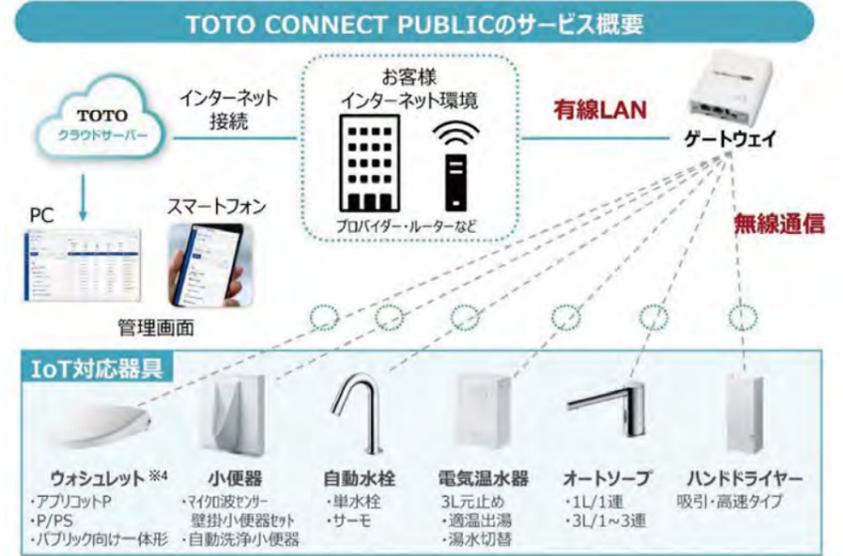
他の自治体でも導入できるか

IoT、非接触設備、アロマディフューザー、OiTrなど、現在の公衆トイレの基準で言えば“フルスペック以上”の設備です

が、もちろん、このレベルをそのまま他自治体で導入するのは簡単ではありません。最新技術をフル装備すれば導入・維持管理コストは高くなります。しかし、OTECOは、技術とデザイン、そして運用の工夫が組み合わさることで、女性や子どもが使いにくいといった問題を解消し、利用率は増加しています。港区の挑戦は、公衆トイレのモデルケースとして大きな意味を持っているのではないのでしょうか。

OTECOの秘密

30年以上前の港区では、「トイレ」の隠語として「おてこ」が使われていたそうです。そこには「手助けする」という意味があるのだとか。利用者を手助けしたいという思いを込めてOTECOと名付けられました。どことなくこのマーク、人が両手を差し伸べてるようにも見えませんか？

櫻木神社「KAWAYAホール」と“トイレの神様”

Toilet Topics



千葉県野田市にある櫻木神社は、桜の名所として知られ、年間を通して多くの参拝者が訪れる美しい神社です。しかし、美しい桜に負けず劣らず参拝者の感嘆の声を集めているのは、境内にある「KAWAYAホール」という名のトイレです。いったいどんな空間なのでしょう。

なぜ神社のトイレが“ホール”？

櫻木神社にとってKAWAYAホールは、単なるトイレではなく「安心して参拝することができるように」と願いが込められた場所です。その願いを実現すべく、トイレの設計で著名な設計事務所ゴンドラに依頼し、メンテナンス性や臭気の予防など、さまざまな議論を重ね、完成しました。建物は神社の景観に溶け込むように設計され、前室は雨宿りや休憩にも使える“ホール”としての役割も果たしています。また、子ども用トイレ、多機能トイレ、オストメイト対応など、あらゆる人が使いやすい設計が徹底されています。

15年経っても変わらない清潔さの理由

KAWAYAホールが特別なのは、建築や設備だけではなく、専門スタッフによる毎日のトイレ清掃の他、宮司自らが清掃を担うほどの真摯な取り組みにより、2011年の開設から15年経ったとは思えない、開設当初と変わらない清潔さが保たれています。また、トイレ内の香りや音楽にも神社という場所にふさわしい配慮が行き届き、五感で心地よさを味わえる空間が、訪れる人の心に静かな安心感をもたらしてくれます。



連子格子から差し込む自然光や柔らかな間接照明が心地よい雰囲気をつくっています。独自性と清潔さ、おもてなしの姿勢が高く評価され、2012年にはトイレ文化の向上に寄与した施設に贈られる日本トイレ協会の「グッドトイレ審査員特別選奨」を受賞しました。

トイレの神様「川屋神社」

KAWAYAホールの内部には、小さな社「川屋神社」があり、排泄物を受け止める「土の神」である埴山姫神と、清浄を司る「水の神」である弥都波能売神の二柱の神様が祀られています。この神様に守られたトイレで参拝者の方をお迎えしようというおもてなしの心が表れています。



春には「さくらの日まいり」も開催され、境内に咲く約30種類、400本の桜が参拝者を楽しませてくれます。これからの桜の季節に櫻木神社とKAWAYAホールを訪れてみてはいかがでしょうか。



櫻木神社 千葉県野田市桜台210-1 東武アーバンパークライン野田市駅から徒歩15分

桜の花びら模様の敷石を5つ見つけられたら幸運が訪れるかも…。

東武鉄道監修の子どもトイレ

近くを走る東武鉄道が監修を務め、車両の内部まで再現された子ども用トイレは、子どもたちはもちろん、大人もワクワクしてしまいます。トイレに入りたくて神社に遊びに来る子どもたちがいるのも頷けます。

